

序章 策定について

1. 策定の背景と目的

平塚駅周辺地区では、近年、近隣市や郊外への大型商業施設の出店や消費者のライフスタイルの変化などの要因により、商店街を取り巻く状況が変わり、買い物客や歩行者通行量の減少など、にぎわいが失われつつあります。

このような状況に対応するため、平塚駅周辺地区の状況や関わる方のニーズを踏まえるとともに新しいまちづくりとしてデジタル化などの技術の導入(スマートシティ[※])や温室効果ガスの排出削減・吸収効果の増加(カーボンニュートラル[※])、自動運転社会への対応などの要素を取り入れたおおむね20年後の将来像(将来のあるべき姿)を示し、市と市民や事業者が共有し、持続可能なまちづくりを実現するため「平塚駅周辺地区将来構想(以下「将来構想」という)」を取りまとめました。

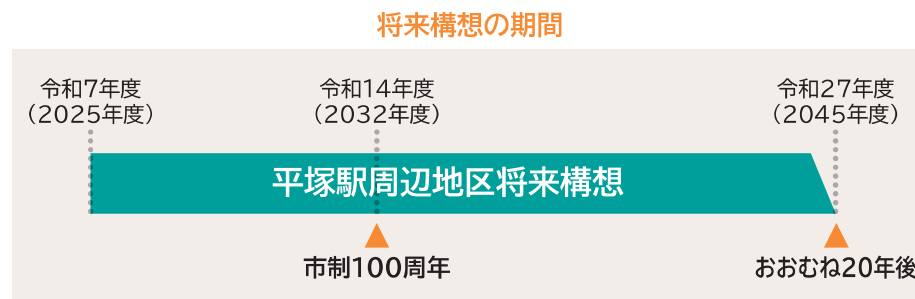
2. 将来構想の使い方

将来構想を実現するためには、従来の市主導のまちづくりだけでなく、市と市民や商業者、事業者、関係団体などが連携しそれぞれが「自分ごと」としてまちづくりに取り組む必要があります。

また、平塚駅周辺地区の現状を改善し、日々変化する社会情勢に対応しながら長期的にまちづくりを進めるためには、将来構想を柔軟に活用していく必要があります。

将来構想がまちづくりに関わる方々へ方向性を示し、想いを共有するツールとして活用されることを期待しています。

この章では、将来構想を策定した意味を共有するため、策定の背景や目的、構成などの概要を示すとともに多様な手法により様々な方の想いを集めたプロセスを示しています。



3.策定までのあゆみ

将来構想の策定にあたっては、検討段階から市民や事業者など、平塚駅周辺地区のまちづくりの実現に関わる人と「思い」を共有することが大切と考えました。

今までの市が作成する計画は、データ分析や関連する市、国の取組みを

踏まえ、併せてアンケートなどを実施してきましたが、将来構想では、関わる市民や事業者など、たくさんの人の声を聴く機会を今まで以上に大切に考え、またそのプロセスが実現に向けた機運を醸成させるムーブメントになるよう、たたき台や素案を作成する各段階で、次のような取組みを進めました。

	令和4年度 (2022年度)			令和5年度 (2023年度)			令和6年度 (2024年度)		
構想策定				たたき台作成			素案作成		策定
市民意見の反映	市民アンケート	事業者アンケート		ワークショップ	アウトリーチ		アウトリーチ		パブリックコメント
関係団体意見の反映		ヒアリング		ヒアリング			ヒアリング		
検討会議				第1回	第2回・まち歩き	第3回	第4回	第5回	第6回
庁内策定委員会 庁内策定部会	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回		第6回	第7回	第8回

4.市民・関係団体などの参加プロセス

将来構想の作成に向け、次のように様々なプロセスでたくさんの「想い」を集めました。

■市民アンケート

市民約3,000人を対象に、郵送配布・郵送回収でアンケートを実施し、平塚駅周辺地区へのニーズや日常生活の実態を把握しました。

■商業者アンケート

平塚駅周辺地区の商店主を対象にアンケートを実施し、平塚駅周辺地区へのニーズや、自身の店舗が立地する通りに対するニーズを把握しました。

■関係者ヒアリング

平塚商工会議所、企業、子育て団体、市民活動団体、高校生、大学生、まちづくりの専門家などの様々な主体へヒアリングを実施しました。

■オープンハウス※によるアウトリーチ

市内の商業施設や公共施設において、ブースを設置し、駅前広場や道路などの各空間のイメージや将来の平塚駅周辺地区での過ごし方などについて意見をいただきました。

オープンハウスの様子



■ワークショップ

自治会長、商店会長などを対象に、駅前広場や道路などの各空間のイメージについて、自由に意見を出し合うワークショップを開催しました。

また、商工会議所と連携し、会員や関係団体を対象にワークショップを開催しました。

ワークショップの様子



■市民説明会

市民向けの説明会を実施し、駅前広場や道路などの各空間のイメージや将来の平塚駅周辺地区での過ごし方について意見をいただきました。

■検討会議

学識経験者や企業などをメンバーとする検討会議を開催し、将来構想の内容について、意見をいただきました。

■パブリックコメント

パブリックコメントを実施し、「平塚駅周辺地区将来構想(素案)」について意見をいただきました。

5. 将来構想の位置づけと構成

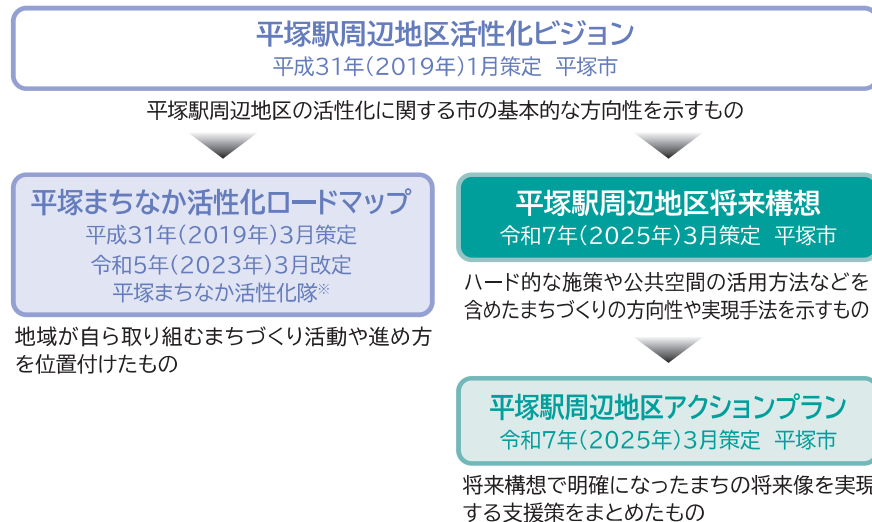
■ 将来構想の位置づけ

将来構想は「平塚駅周辺地区活性化ビジョン」を踏まえて、ハード的な施策や公共空間の活用方法などを含め、まちづくりの基本的な考え方や方向性、実現手法などをまとめたものです。

まちづくり活動の担い手となる事業者などが中心となり、地域が自ら取り組むソフト的な施策をまとめた「平塚まちなか活性化ロードマップ」と連携した取組みを進め、相乗効果を生むことで、平塚駅周辺地区の持続可能なまちづくりの実現につなげていきます。

また、将来構想で明確になったまちの将来像を実現するため、補助金や規制緩和などの支援制度をまとめた、「平塚駅周辺地区アクションプラン」を合わせて運用していきます。

将来構想の位置づけと構成



平塚駅周辺地区将来構想の構成

はじめに

将来構想の導入として手に取った方がイメージや親しみを持てるように、将来「どのような地区になるのか」、「どのようなライフスタイルを実現できるのか」を示しています。

序章 策定について

将来構想を策定した意味を共有するため、策定の背景や目的、構成などの概要を示すとともに、多様な手法により様々な方の想いを集めたプロセスを示しています。

第1章 これからのまちづくり

平塚駅周辺地区の現状を踏まえるとともに本市や国の動向などを捉え、まちづくりを進めるために必要な視点を示しています。

第2章 まちづくりの コンセプト

社会の変化などの将来を見据えた平塚駅周辺地区の役割を示すとともに関わる方の合言葉となるコンセプトを示しています。

第3章 ランドデザイン*

コンセプトを実現するため、平塚駅周辺地区全体を見渡し、中心となるエリアを設定するなど、骨格を示し、メリハリのある整備などのイメージを示しています。

第4章 まちづくりの方針

ランドデザインをもとに将来イメージを描くために必要となる考え方を整理して7つの方針として示しています。

第5章 通り・エリアの 将来イメージ

主要な通りやエリアの将来イメージを示しています。このイメージをもとに様々な主体が関わりながらまちづくりを進めるための「理想像」を示しています。

第6章 実現に向けて

将来構想を実現するための取組みや進める順序、推進体制を示しています。また、実現に向けた本市や様々な主体の関わりを示しています。